

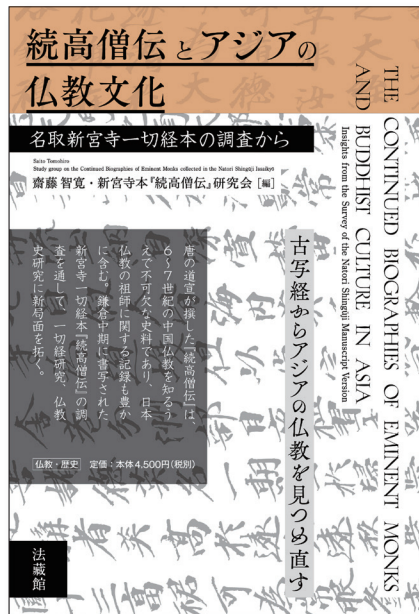
続高僧伝とアジアの仏教文化

名取新宮寺一切経本の調査から

齋藤智寛・新宮寺本『続高僧伝』研究会〔編〕

四六判・上製カバー・三六四頁・本体四、五〇〇円＋税

2025 年 9 月刊行



唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、六七世紀の中国仏教を知るうえで不可欠な史料であり、日本仏教の祖師に関する記録も豊かに含む。鎌倉中期に書写された新宮寺一切経本『続高僧伝』の調査を通して、一切経研究、仏教史研究に新局面を拓く。

【目次】

総説

〔齋藤智寛〕

『律相感通伝』のテキストの形態の変遷

〔陳志遠〕

【第1部】新宮寺本『続高僧伝』調査から

新宮寺本『続高僧伝』からみた興聖寺本系の成立過程——巻四玄奘伝を中心に

【第3部】アジアにおける『続高僧伝』とその展開
ベトナム仏教における道宣律書の受容と刊行

新宮寺本『続高僧伝』巻八慧遠伝について——

最澄の玄奘理解——天竺・那爛陀寺を舞台とする僧

諸本校異から見た特徴

〔斉藤達也〕

名取新宮寺本『続高僧伝』玄奘伝の字形についての一考察——「正字」、異体字、誤字

伝的諸言説をめぐって

〔富樫進〕

保子

経蔵と文殊

〔長岡龍作〕

【第4部】附録

【第2部】『続高僧伝』と道宣

『続高僧伝』の校訂本に関する私見——同伝巻四

北斉・文宣帝の仏教政策——『続高僧伝』の記載

「玄奘伝」を中心にして

〔定源〕

を中心

新宮寺本『続高僧伝』現存十七巻法量表

菩薩になった異族僧——『続高僧伝』が築き上げた

新宮寺本『続高僧伝』巻四・巻八所見（二〇二二年）

僧屋像

〔池麗梅〕

道宣『中天竺（舍衛国）祇洹寺図経』の撰述意図

新宮寺本科研研究集会記録

——天竺中土説の克服と関連して

〔倉本尚徳〕

おわりに

〔富樫進・堀裕〕

【編者略歴】

齋藤智寛◆東北大学大学院文学研究科博士後期3年の課程修了。博士（文学）。現在、東北大学大学院文学研究科教授。専門は中国哲学、とくに中国禅思想。
新宮寺本『続高僧伝』研究会◆齋藤智寛（代表）、川合安（東北大学名誉教授）、斉藤達也（国際仏教大学院大学附属図書館副館長）、佐竹保子（東北大学名誉教授）、富樫進（東北福祉大学教授）、長岡龍作（東北大学大学院特任教授）、堀裕（東北大学大学院教授）

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

仏教・歴史

注文書

(書店名)		様冊	
ご担当		法藏館	
齋藤智寛・新宮寺本『続高僧伝』研究会〔編〕		四、五〇〇円＋税	
続高僧伝とアジアの仏教文化		ご注文所	
名取新宮寺一切経本の調査から		お電話	
ISBN978-4-8318-5733-0 C3015		お名前	